

手縫針の輸出から続くグローバル展開のDNA 時流に合わせた大胆な業態変革で100年企業へ

左：RFIDブランドタグ 右：はがすと表面に文字が現れる「改ざん防止シール」



手縫針製造から印刷業への転換。

株式会社三宅（以下、三宅）の前身は、1917年創業の三宅製針である。手縫針製造の大手専門メーカーとして日本の縫針輸出に貢献してきた。しかし、戦後になって後進国の台頭や円高差損により、業界全体が大きな打撃を受ける。「製針事業の将来はない。思い切って事業転換しなければ」と考えた二代目の三宅來次郎氏は、輸出をあきらめ国内向けの新しい事業を模索していた。ちょうどその頃、値札用の虫ピンを納入していたある

バーコードの出口がセキュリティタグに発展。

大胆な業態変革のDNAは、三宅社長に脈々と受け継がれている。入社して間もなくのアメリカ研修で、初めて「バーコード」の存在を知った。「いずれ日本でも必ず普及する。これで印刷事業も大きく進化する」と確信し、他社に先駆けてバーコードの印刷技術を研究。POSシステム等の普及が急速にバーコードの

力があると知り、3M社のシステムを勉強。1983年には住友スリーエムの広島地区代理店として万引防止システムの販売を開始した。大変な苦勞を重ねた末にようやく売れ始めるのだが、この当時から地道な情報収集が「セキュリティ」をキーワードにしたその後の関連商品開発に結びついていく。

グローバル展開で 拡がる夢。

100件以上に上る。独自製品による他社との差別化で、価格競争に巻き込まれないことが強みだ。

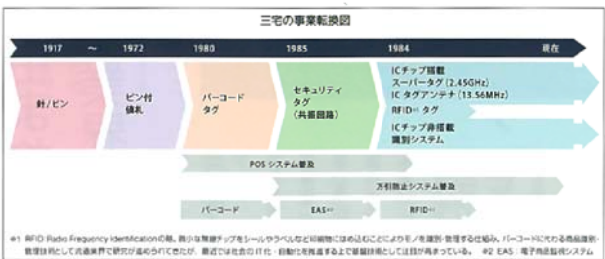
同社は現在、自社開発のバーコードプリンタ、セキュリティシステム、次世代の情報伝達手段の担い手であるデータキャリア（スーパータグ）など開発型の企業ならではの事業を推進している。

産学共同研究で 独自の製法に挑戦。

自社でのセキュリティ商品の製造を志し、1990年には2人のエンジニアを採用。広島工業大学との産学共同研究が始まった。当時のセキュリティタグは、アルミ箔に回路を印刷するエッチング製法が主流だったが、より精度、製造スピード、コストの面で優れたダイカット製法を研究した。針製造で培った、微細な針穴を金型で抜く技術が開発に活かされた。

1994年には独自のダイカットタグの製法特許を出願し、97年に国内販売を開始した。5年をかけた新型タグの開発過程は試行錯誤の連続だったが、三宅社長は「できない理由を言わないようにしよう。どうしてもできるのかを考えると続けは必ず見つかる」と社員たちを励まし続けた。特許出願はこれまで

万引被害を防ぐための防犯タグラベルの製造で、三宅は国内で3割を超え



成長産業であるセキュリティ関連市場で、次世代製品の開発アイデアは尽きるところを知らない。

Corporate PROFILE

株式会社三宅

代表者：代表取締役社長 三宅 正光
所在地：広島県広島市佐伯区石内上1-16-1
設立年月日：1917年6月創業
業務内容：シール・ラベル印刷、バーコードプリンタ販売、セキュリティシステム・タグの開発・製造・販売
WEBサイト：http://www.miyake-inc.co.jp/



代表取締役社長
三宅 正光